

学校法人神戸学院 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2021年度達成度評価表

		評価	理由
中期目標	教学の主体性を尊重しつつ、安定的な経営基盤を確立し、兵庫、神戸を代表する魅力ある学校となることを目指します。		
中期計画	1 経営と教学の役割分担の明確化と理事会機能の強化	C	各実行計画の進捗状況把握のため、「第2次中期行動計画進捗報告書(2018-2022)」冊子作成及び第3次中期行動計画策定に向けての検討を行った。課題となっていた附属中学校・高等学校の自己点検・評価・検証体制の整備を完了することはできたが、中期行動計画の進捗管理については課題が残った。今後は法人及び大学と同一のシステムを活用して、法人全体で進捗状況が把握できるよう整備することが必要である。
	2 財政の健全化と安定的な経営基盤の確立	B	資産運用の結果、増収が見込めることから、適切な資産運用ができている点は評価できる。今後は、長期財務計画の試算において掲げる経常収支差額比率などの数値目標と現状値との差を踏まえた上で、課題に対する改善策を検討することが必要である。また、本法人が100%出資する株式会社神戸学院パートナーズの事業展開方法について、さらなる発展に向けて引き続き検討を行うことが望まれる。
	3 社会の変化に機動的に対応するための法人資源の選択と集中	C	法人設置学校施設の施設充実について、特に大学の有瀬キャンパスに関して課題・懸念事項の整理・検討が継続的に行われたことは評価できるが、今後は附属中学校・高等学校の施設についてもより重要課題として対応することが望まれる。また、大学の有瀬キャンパス整備については、資金面における問題を想定し、臨機応変に決断できるよう準備しておくことが必要である。
	4 労働環境の整備と男女共同参画の推進	B	事務職員の人事評価制度導入に向けた試行、評価者・被評価者を対象とする研修及び人事評価制度導入についてのアンケートの実施により、運用に向けた基礎づくりができています。また、業務の効率化を図るため、電子決裁の導入に向けて、業者からの情報収集や学内規程の見直しを行うことで検討が進んでいる。今後もコストパフォーマンスを意識したシステムの構築を目標に検討を重ねることが求められる。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る